

福島っ子に、 めいっぱい遊んでもらおうよ

神奈川で「移動教室」を広げよう

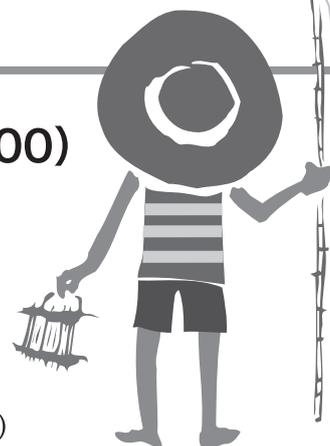
6月14日(土) 13:30 ~ 16:30 (開場13:00)

講演：「福島の子もたちの今は」

日野彰さん(福島県教職員組合特別中央執行委員)

「伊達ー横浜 子どもたちの交流経験から」

花岡崇一さん(木と建築で創造する共生社会実践研究会事務局長)



講師紹介

日野彰さんは中学校教師で、3.11以後は福島県教職員組合の専従となり、主として双葉郡の子どもたちや先生方のために活動され、現在は原発問題を担当しています。福島とりわけ楡葉町をふくむ双葉郡の子どもたち・先生がどんな状況におかれているかをお話ししていただきます。

花岡崇一さんは環境教育の実践者です。横浜市矢向小学校校長時代、伊達市保原町への工場移転をきっかけに、現在も継続している矢向と保原の子どもたちの交流をスタートさせました。伊達市の「移動教室」も支援されているので、横浜市ー伊達市の交流の積み重ねについてお聞きしたいと思います。

福島っ子に神奈川でめいっぱい遊んでもらおうと、「福島子ども・こらっせ神奈川」は、2012・2013年の夏、楡葉町の小・中学生を招いてリフレッシュプログラムをおこないました。今年も8月6日(水)から8月10日(日)まで、4泊5日のプログラムを予定。そのスタートとして講演会を企画しました。

私たちが目指しているのは、学校ぐるみで一定期間、福島を離れて生活し学ぶ「移動教室」の実現ですが、今年度は進展がみられました。文科省・福島県の事業で、「移動教室」が福島県内だけでなく県外でも実施されることになり、神奈川でも川崎市が伊達市の「移動教室」を受け入れることになりました。

神奈川での「移動教室」を広げていきましょう！

会場 : 横浜社会福祉センター 8階8F室(JR桜木町駅前)

<http://www.yokohamashakyo.jp/sisyakyo/map.html>

参加費 : 500円

主催 : 福島子ども・こらっせ神奈川

連絡先 : TEL:045-353-9008 FAX:045-353-9998

E-mail: info@korasse-kanagawa.org



福島の子どもら支援 「移動教室」実現へ講演会

あす中区



福島の子どもたちを支援する市民団体「福島子どもこらっせ神奈川」（山際正道代表）は、学校外での学習活動を授業の一環として扱う「移動教室」の写真を昨年11月県内で実現させようと、取り組みを進めている。18日には横浜市開港記念会館（同市中区）で講演会を開き、賛同を呼び掛ける。

移動教室は、一定期間福島県を離れ、東京電力福島

まで校長を務めた宍戸仙助さんが、昨年度の体験を紹介。移動教室の効果とともに、事故から2年が経過した今も、移動教室が必要とされる実情を訴える。

こらっせ神奈川の遠野はるひ事務局長は「神奈川で移動教室を実現するため、何ができるか考えていきたい。これまで活動に関わっていない人にも、興味を持ってもらえれば」と話している。

同団体は昨年8月、避難生活を送る福島県楢葉町の小中学生計34人を4泊5日で横浜市内に招待する「神奈川・横浜リフレッシュプログラム」を企画。ことしは、同町の中学生約30人を山北町や横浜市に招待する予定で、講演会に続いて昨年の活動報告などを行い、支援を呼び掛ける。

第1原発事故による放射能への不安のない環境で、勉強や課外授業などを行う活動。子どもたちに安心感や開放感を与える狙いがある。福島県伊達市の小学校9校が昨年、新潟県見附市で行った活動を通常授業の一部として扱う形で実現したが、受け入れ自治体との協力関係や予算の確保などが課題という。

今回の講演会では、伊達市内の小学校でことし3月

講演会は午後6時から、参加費500円。問い合わせは、こらっせ神奈川事務局 ☎045(353)9008。（横堀 拓也）

2014年度 横浜・山北リフレッシュプログラム サポートをよろしくお願いします！

【昨年までの様子】

「福島子ども・こらっせ神奈川」は、賛同人の皆様の暖かいご支援を戴き、2012・2013年の夏、檜葉町の小・中学生を招いてリフレッシュプログラムを行いました。2013年度のプログラムは28人の檜葉っ子を招き、3泊は山北町の山あい、1泊は子ども達の希望もあり横浜に滞在しました。もりだくさんのプログラムの中でも、久しぶりの川遊びがとっても楽しかったようで、びしょぬれになりながら遊んでいました。

【最近の活動とこれから】

今年のプログラムに向け、既に準備がスタート。実行委員会が立ち上がり、内容について話し合いを行っています。また、プログラムに参加してくれた子ども達に再会しようと、4月5日(土)に福島・檜葉のことを学ぶ事前学習会を行った後、4月27日(日)に学生9人と事務局7人でいわきを訪問しました。総勢30人の「こらっせ交流会」では、カレーやフルーツポンチをつくるなど、檜葉っ子たちと楽しい時を過ごしました。山北で、横浜で、檜葉っ子たちはどんな顔をみせてくれるのでしょうか。

【2014年度のプログラム】

- ◆日程 2014年8月6日(水)～8月10日(日)
- ◆場所 丹沢荘(山北町中川温泉)
野島青少年研修センター(横浜市)
- ◆目的 保養・学習支援・交流

あなたも
賛同人に
なってください

賛同金もよろしくお願いします。
個人一口3,000円 団体一口10,000円

ご賛同いただいた方には報告書をお送りします。
メールかFAXで連絡先をお知らせください。

振込先 郵便振替

口座名称 福島子ども・こらっせ神奈川
口座番号 00270-7-101155



問い合わせ 福島子ども・こらっせ神奈川

TEL:045-353-9008 FAX:045-353-9998 E-mail: info@korasse-kanagawa.org

= 2014年度 キックオフ講演会報告 =

福島っ子に、めいっぱい遊んでもらおうよー ー神奈川で「移動教室」を広げようー

6月14日（土）横浜社会福祉センターで、2014年度「横浜・山北リフレッシュプログラム」に向けたキックオフ講演会が開かれました。今年のタイトルは「福島っ子に、めいっぱい遊んでもらおうよー神奈川で「移動教室」を広げよう」。約50人が集まり、熱心に講師の話聞き、議論しました。



<スライド上映を鑑賞>

集会は、まず山際正道代表から「文科省に働きかけて、福島の子どものための県外での『移動教室』に予算がつきました。私たちは残念ながら対象になりませんが、『移動教室』の輪は確実に広がっています。今年も『リフレッシュプログラム』を成功させましょう」とあいさつがありました。

続いて昨年の「リフレッシュプログラム」と今年4月、榎葉町仮設住宅内の「空の家」（いわき市）で行われた交流会のスライド上映、学生スタッフの粟ヶ窪瑤子さんから昨年の体験談がありました。

日野さんー子どもも教師も疲弊



<日野彰さん>

最初に福島県教職員組合特別中央執行委員である日野彰さんが「福島の子どもの今は」と題して話しました。

福島の子どもの現状はどうなっているのか、日野さんは以前、榎葉中で教えていたが、その教え子の同窓会があり出席したら、原発で働いていた若者が、原発事故後に車に石をぶつけられたという。また、結婚も決まっていたがダメになった若者もいたそうだ。

双葉地方の小中学校の生徒数は、震災前に比べ10分の1に減った。ところが13年度と14年度を比べると再開した学校は増えたが、生徒数は減っている。スクールバスで1時間以上かけて通学しているのが大半だ。生徒は部活も十分やれないし、外で遊べない。以前は何キロも歩いて通っていたのにスクールバスの利用で歩かなくなり、体力が落ちている。

また、生徒に何か問題があった時に遠くて家庭訪問ができない。仮設住宅に家庭訪問してもいいのかという問題もある。教職員も被災者のケースが圧倒的で、中には精神疾患で病休に入っている人もいます。深刻な福島の実情報告に参加者はじっと聞き入っていました。

花岡さん－本当の教育ができる都会と田舎の移動教室

続いて「木と建築で創造する共生社会実践研究会」事務局長の花岡崇一さんが「伊達－横浜 子どもたちの交流経験から」と題して講演しました。

横浜市立矢向小学校の校長として、5年生全員山梨県道志村で2泊3日の宿泊体験をやった。早朝からの虫取り、川遊びなど子どもたちに好きにやらせた。その後、福島県の旧保原町（現伊達市）の町長から小学生のホームステイの招待を受けた。希望者が行き、ホームステイの受け入れもやった。どちらも今も続いている。



＜花岡崇一さん＞

この経験が3.11後に役に立った。伊達市に移動教室の提案、新潟県見附市での移動教室が始まった。音楽の授業で郷土芸能を交換し合うこともやった。

見附市は教育長も現場の教師も熱心だったが、これは中越地震でお世話になったから返そうという意識があったからだ。小規模校同士の授業もやった。地域のDNAを残すためにも小規模校は必要と実感。先生が少なければ地域の大人たちが手伝えばいい。

いずれ東京、横浜も震災にあう可能性がある。「こらっせ」を通じて、その時のためにも仲良くしておいた方がいい。人と人がつながるといのは「食べさせてくれ」と言った時に「あなたのためならいいよ」という返事がもらえる関係だ。「こらっせ」を通じて大人同士の関係を作ることは大事だ。

私がやりたいことは、1学期間、都会の小学校が海か山か農村で授業をやること。小学校の時から田舎に行って体験する。日本中でこれをやりたい。伊達と見附の移動教室は、条件が重なってできた面はあるが、突破口になったのでは。こんな事例をたくさん作り、横につながることだ。「こらっせ」に期待している。



＜活発な意見交換＞

花岡さんの実践と提案に大きな拍手がありました。日野さん、花岡さんの講演の後、フロアからの質問、意見を受けました。福島の子どもたちの健康問題、他の地域で福島の子どもの受け入れを進めている人から文科省の対応などの質問のほか、各所でボランティア活動などを行っている人や学生スタッフからも意見がありました。